



ほっとするね
緑の府中

指導室だより

第 44 号

編集・発行 府中市教育委員会学校教育指導室

〒183-8703 府中市宮西町 2-24

電話 042-335-4063



谷谷 隆一 委員

教育委員就任にあたって

昨年12月、教育委員に就任致しました谷谷と申します。私自身、現在、高校・中学校・小学校に通う4人の子育てに家内共々奮闘し、親として伝えるべきことは何かと日々模索中であります。

私は昭和36年に府中市内で生まれ、府中第三小・府中第三中を卒業し、想い出もたくさんありますが、就学前の昭和40年頃のことですが、今でも忘れられません。農業を営んでいた我が家は、茅葺き屋根の江戸時代に建てられた家でした。水道は無く、家の外にある風呂へ井戸から水を汲んできて、薪を焚いて湧かしていました。トイレも鶏小屋の裏にあり、夜中に行きたくなかった時などは懐中電灯を持って行ったものです。秋、稲刈りの手伝いがまだ出来ない私には、おやつになるイナゴ捕りが仕事

でした。同じ年頃でも、信じられないと言う方もいると思います。しかし、私の家だけではなく隣近所も同じでした。当時は何の疑問ももたず、寧ろ些細なことでも歓びや感動を与えてくれたものでした。

近年、経済の成長と共に物と利便性に満たされ、世界でも有数の豊かな国となった日本ですが、はたして「豊かさ」とは一体何なのでしょう。私は何年か前に、かなり高齢の御婆さんがテレビ番組で言っていた「楽は苦の元、苦は楽の元」という言葉が忘れられません。これが価値観の原点だと思いました。私には教育の専門知識はありませんが、15年ほど前から教育の大切さを強く感じさせられる機会が多くありました。「社会をつくる」ということは人を育てることであるとの思いからこの役をお引き受け致しましたが、着任して数ヶ月、自分の役割を知れば知るほど責任の重さを痛感している次第です。

まだまだ駆出しではありませんが、今後とも諸先輩方のご指導・ご鞭撻を仰ぎつつ、研鑽を重ねてゆく所存でございますので、どうぞ宜しくお願い致します。

府中市立武蔵台小学校の第2回卒業生ならびに府中市立府中第七中学校の第5回卒業生です。平成元年より武蔵台小学校の学校医、平成12年より2年間、武蔵台小学校のPTA会長を務めました。現在も次女が武蔵台小学校に在籍しています。

府中で教えを受け、府中で育った者として、府中市の教育について何か恩返しが出来れば幸いです。

私の職業は小児科医です。小児科医を選んだ一番の理由は、自分自身が子どもの頃に楽しい思い出が沢山あったので、多くの子どもたちが子ども時代を楽しめることが出来るように子どもの心身の健康に関わっていかうと考えたからです。

しかし、小児科医として20年



崎山 弘 委員

あまり仕事をしてみると、子どもの心身の健康を増進して維持するためには、自然科学である医療的行動だけでなく、家庭、地域、学校などの社会生活と密接に結びついている社会科学、伝統や宗教などの人文科学の分野も含めた総合的な視点が不可欠であり、全人的に子どもと関わる教育現場の重要性をいままながら再認識する次第です。

大学の非常勤講師として医学部の学生教育に関与していますが、これは技術的指導の範疇を超えるものではなく、私は教育学、教育行政についてはほぼ純粋な素人です。自然科学的な発想をもち、子どもの心身の健康に留意しながら、教育現場に携わる多くの方々と協働して、府中市の子どもの教育の発展と充実を目指すという気概をもって教育委員の職務を全うすることが、私に課せられたレイマントロールの仕事内容だと理解しています。

無知ゆえに稚拙な考えを披露することもあろうかと存じますが、先輩の教育委員の方々ならびに教職員の皆様のご指導を受けたく存じますので、今後ともよろしくお願いいたします。

新しい教育委員の就任のあいさつ



Ⅱ教育随想Ⅱ

第Ⅱ期二年目（通算5年目）に入る

「府中市学校教育プラン21」

府中市教育委員会 教育長 新海 功

◆教育改革の歩み

昨年の12月22日に、教育基本法が改正され、昭和22年に公布されてから、一字も変わることなく約60年を経過した旧教育基本法が、新教育基本法に取って変わったわけです。

この改正を機に、新たな枠組みが示され、学習指導要領のみならず学校教育法など、多くの関連法案や制度の見直しが本格化し、日本の教育が戦後最大の変革期を迎えることになりました。わたしたちは、中央教育審議会や教育再生会議の議論等と併せて、その動向を注視していく必要があります。

◆座標軸はプラン21

幸い本市には、第Ⅱ期二年目（通算5年目）に入る「府中市学校教育プラン21」があり、変革期・混沌期にあっても、揺るぎなく教育を推進することができます。

プラン21の第二期は、平成20

年までですが、府中市教育委員会としては、五つの重点を定め、焦点化して推進中です。

第二期の主な取り組みは次のものです。

- 1 子どもの知・徳・体のバランスの取れた成長を目指します。
- 2 特色ある開かれた学校づくりに支援します。
- 3 安全で安心な教育環境づくりに取り組みます。
- 4 ICTを活用し、情報を共有することにより質の高い教育を推進します。
- 5 地域の人材や資源の活用にも努めます。

◆研究協力校等の発表会

昨年度も小・中学校延べ12校の研究発表会が開催され、充実した年度となりました。今年度も、現在のところ11校の研究協力等の発表会が予定されています。積み上げた研究の成果と課題をまとめて発表会を開き、児

童・生徒に還元するとともに、教員の研究と修養の充実を図ります。

新教育基本法には、これまで教育公務員特例法のみに謳われていた「研究と修養」が、第九条に条文として入りました。教育の根本法である教育基本法に、研究と修養の重要性が謳われた意味は大きいと思います。

教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、職責の遂行に努めなければならぬことは言うに及ばません。

◆実効性のある教育活動を

教育の質の向上については、継続中の3大事業である「算数・数学TT・少人数指導」「学校評価システム」「学校教育ネットワーク事業」は、「府中ブランド」として、学校と一体となって充実を図っていきます。要は、如何に創意工夫をし、「実効性」ある取り組みをするかです。

また、小学校の英語活動の時間拡大を行い、「グローバル社会に対応した小学校段階における英語活動の充実」を図ります。小学校段階で、多量の英語を浴びるように聞くことは有効で、聞いて分かる英語活動の充実を図っていきます。

◆特別支援教育の推進

特別支援教育については、昨年度中に特別支援教育コーディネーター及び校内委員会の指名設置が終わりました。また、巡回指導員、巡回相談員も各学校を定期的に訪問したり、学校のニーズに応じて支援したりしています。

今年度は、それらの活性化を一層図るとともに、個別的教育支援計画、個別指導計画の作成を充実させていきます。更に、副籍による交流及び共同学習等の推進を図っていきます。

◆健康の保持増進

体力面の課題については、昨年度中に「体力向上委員会」を設置し、児童・生徒の体力の現状分析を行ってきました。今年度は、モデル校を設置して、より詳細なデータの収集・分析、更にはモデルプランの実施を行っていきます。

学校保健については、新たに「学校保健会」を設置し、関係機関との連携を強化して、児童・

生徒の健康増進に一層努めていきます。

学校給食についても、食育と併せて、健康に配慮した内容の充実を図っていきます。

◆学校施設等の整備

学校施設は、児童・生徒の学習や生活の場として、その役割の重要性は言うまでもありません。

耐震化事業、トイレ改修等の学校施設の整備を、計画的に進めていきます。

府中第三中学校の校舎改築は、9月竣工に向け、引き続き進めているところです。

更に、今年度は小学校6校、中学校4校の耐震改修に、実施設計を含め着手します。

明るく快適で使いやすいトイレ改修については、本年度と来年度、2か年を目途に進めていきます。今年度は小学校10校、中学校5校のトイレ改修を実施します。

◆教育の成果の検証と改善

まだまだ触れたいことは沢山あるところですが、終わりにマネジメント・サイクルについてのお話です。

教育水準の向上のためには、R（調査）P（計画）D（実施）C（評価）A（改善）の経営管理過程アプローチを常にお願います。

平成18年度府中市教育委員会研究協力校研究発表会

自分の思いや願いを

伝え合う児童の育成

「話すこと・聞くこと」の基礎 基本の定着を目指して

府中市立府中第五小学校
前研究主任 原田 君枝

本校の教育目標は、「健康で明るく・だれとも仲よく・自分から努力する」である。その具現化の一つとして、国語科の「話すこと・聞くこと」の基礎・基本の定着を重視し、自分の思いや願いを相手に確かに伝えたり、受け止めたりする能力を育てたいと考えた。つまり「伝え合う力」を身に付け、自分らしさを大切にしながら、相手と交流することができ「豊かな人間関係」を築いていくことを目指し、研究主題を、「自分の思いや願いを伝え合う児童の育成」、副主題を、「話すこと・聞くこと」の基礎・基本の定着を目指してと設定し、研究内容を以下の三つの柱とした。

- 一 分ける授業を行う手だての工夫
- 二 言語環境・スキル学習の工夫
- 三 「伝え合う」喜びが実感できる活動の工夫

低学年は、「ことばで相手と関

わることができ、はっきり話し、しっかり聞く子」を目指す児童像と考え、相手に分かるように順序を考えながら相手の話を受けて話し、話し合いを続ける活動の工夫をした。

中学年は、「筋道を立てて話し、自分の考えと比べながら聞く子」と設定し、一人一人の考えを尊重し、自分の意見と比べながら聞き、合意点を見付けようと考えながら話し合いを進めることができるように工夫をした。

高学年は、「立場や意図をはっきりさせて、相手の思いを受け、話し合いができる子」と設定し、自分の結論や、自分の意見と比べて、それが違って相手も尊重する気持ちをもって、話し合いが深まるように工夫をした。

仲よし学級は、「伝え合うことに喜びを感じ、人との関わりを楽しむ子」と設定し、共感し合



3時のおちゃにきてください

える人間関係を育て、情緒の安定を図ってきた。また、話し方聞き方の具体的なモデル、方法を提示しながら支援をした。

分ける授業を行う手だての工夫が基礎・基本の定着につながる。

【題材の工夫】

学習に「遊び的要素」を取り入れる工夫をした。また、「聞いてほしい」「知りたい」という思いをもたせるために、心を動かされた出来事を題材にするようにした。そのために感じる心を育てることに力点を置く日記指導をベーシック学習でも行ってきた。

【場の工夫】

様々な学習形態の工夫をして、話し合いの必要性を児童が実感し、具体的な中身の濃い話し合いができるようにした。自分たちの提案するユニバーサルデザ

インを取り入れ、分かりにくいところや工夫の足りないところをアドバイスし合い完成させた。その提案を店や市役所に届けた。

【評価の工夫】

学習の目当てを自分たちで達成できているか評価していくための評価カードを工夫し、それぞれの過程で自己評価やグループ評価ができるようにした。教師の児童の見取り方法についても追究してきた。

「自分らしさ」を大切にする言語環境づくりの工夫が豊かな学びを引き出す。

スピーチをする際、学年を超えた学習材を使用することで、児童にも段階的な課題を与えることができた。ベーシック学習でも継続的に実践ができた。このことによって、相手を意識した話し合いがスムーズにできるようになり、どうすれば話し合いが深まるのかも具体的に、技術の習得につながった。

「伝え合う」喜びが実感できる活動で人間関係も深まる。

総合的な学習の時間と関連を図り、地域の農家の方と野菜作りをする活動や、「五小まつり」の取り組みを通し、グループの中で話し合いを進めたり、お互いの意見を尊重したりしながら、



ユニバーサルデザインを考えよう

より深まりのある活動ができた。年齢や立場の違いや色んな方に作り方やゲームの仕方を説明する中で、相手の立場に立った分かりやすい表現方法が身に付いてきた。

これまでの研究から、学校全体の人権意識が高まり、自己肯定感が芽生え、人との関わりも温かく感じられるようになってきた。

平成18年度府中市教育委員会研究協力校研究発表会

豊かに生きる子ども

～知・徳・体の調和のとれた

白小教育の創造～

府中市立白糸台小学校

研究主任 木下 健太郎

一 研究主題について

本校では、「豊かに生きる子ども」を「知・徳・体それぞれの場面で生き生きと活動に取り組み、自己実現を目指す子ども」と考えた。自己実現とは、「～になりたい」「～してみたい」など、自分なりの目標を掲げ、その達成を目指すことである。

本校の目指す「豊かに生きる子ども」とは、まさに自己実現に向けて、自分なりにめあてをもち、自分を高め、自分のもっている力を最大限に発揮し、生き生きと学習活動に取り組んでいる子どものである。

二 研究の方法

教育活動を大きく知育・徳育・体育に分け、算数の学習を中心とした「すじみち部会」(知)、道徳・生活科・総合的な学習の時間を中心とした「かかわり部会」(徳)、体育の学習を中心とした「すこやか部会」(体)の

三つの部会を構成し、研究を進めた。それらの研究成果を学年内で共有し、生かすことで知・徳・体の調和のとれた白小教育を展開した。

知・徳・体それぞれの部会に分かれ部会テーマ・目指す子ども像を設定し、重点的に研究を深めるとともに、研究全体会や学年内で共通理解し、それぞれの研究成果を共有し合った。

具体的には、年間6回の研究授業(全体会)と年9回の部会内授業の実践を通して研究を深めた。更に、学校評価や授業改善推進プランを活用し、教師一人一人が日々の授業を振り返り改善していくことで、日常の実践の質を高めた。

三 研究の内容

○すじみち部会研究テーマ

「筋道を立てて考える力を育て、互いに高め合う子どもの育成」

①筋道を立てて考える力を育

てる指導の工夫

②互いに高め合う指導の工夫

③基礎・基本を定着させる評価と支援の工夫

○かかわり部会研究テーマ

「豊かなかかわりを通して互いに分かり合おうとする子どもの育成」

①他者とのかわりを重視した学習活動の工夫

②道徳的価値と生活科・総合的な学習の時間の関連を図った指導の工夫

③自己の振り返りと互いの認め合いを意識した活動の工夫

夫

○すこやか部会研究テーマ

「豊かなかかわりの中で主体的に運動に取り組み、健康的な生活を営む子どもの育成」



①「仲間と豊かにかわり共に学ぶ力」を重視した指導法の工夫

②「運動の特性に応じた動き(価値ある動き)」を生み出す指導法の工夫

③自己の振り返りと相互の認め合い

④「自分の心と体を知り自分自身の健康について考える力」を育てる指導法の工夫

研究発表会では、研究の概要について、ビデオにまとめて発表した。その中で、子どもや保護者のインタビュー、授業風景や教員の研究についての感想などを取り入れることにより、参観者により分かりやすく研究の概要を伝えることができた。

四 各分科会の実践例

すじみち部会(算数)

○問題解決型の学習過程で、特に発表・検討の過程を重視した実践(長さ・三角形と四角形) **かかわり部会**(生活科・総合的な学習の時間・道徳)

○府中養護学校との交流と道徳授業を関連させた実践

すこやか部会(体育)

○タグを使ったゲーム・ボール運動の実践(タグゴール・タグゲーム・タグラグビー)

○養護教諭・学校薬剤師・保護

者と連携を図った保健授業

五 研究の成果と課題

①研究の成果

子どもが様々な場面において、自己実現を図る指導のポイントを明らかにすることができた。

②研究の課題

各部会の研究を更に実証的に深め、相互の関連や発展性を考えていくが必要である。

〈研究発表会の講演〉

演題

「子どもたちの自己実現を支える学校・家庭の役割」

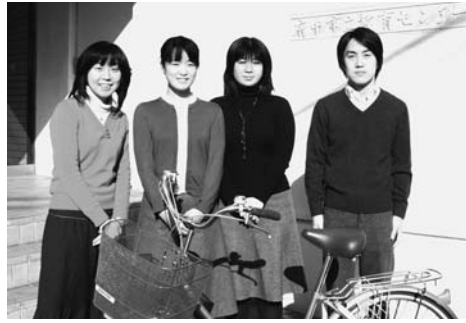
講師

前東京純心女子大学教授
宇井 治郎 先生



◆はじめに

「字を書くことに困難がある」「授業に集中できない」「友達とのコミュニケーションがうまくいかない」——学習障害、注意欠陥・多動性障害、高機能自閉症などのいわゆる軽度発達障害がある子どもにとって、学校とは想像以上に様々な困難を経験する場なのではないだろうか。子どもにとって少しでも困難に



巡回相談員スタッフ

特別支援相談室より①

昨年度の巡回相談を
振り返って巡回相談員
本間 加恵子

対する軽減が図られ、いきいきとした学校生活につながるような、一人一人に合った特別な教育的支援の提供が求められていることが分かる。

府中市では、特別支援教育体制の充実を図るため、平成18年度から、教育センター内に特別支援相談室が設置された。特別支援相談室は、就学相談、巡回相談、巡回指導からなっている。そのうちの巡回相談について18年度の報告を含め紹介したい。

巡回相談では、現在4名の心理士が市内の小学校をエリア別に受け持ち、月に3〜4回程度訪問し活動を行っている。内容については、各学校の特別支援教育コーディネーターにより学校の実情に合わせて設定していただいている。主な業務は、授業の見学、教員との情報交換および相談、保護者・児童の相談、校内研修会への参加および講師派遣、発達検査の実施である。

なお、相談活動は、先に述べたような特別な教育的支援を必要とする子だけでなく、不登校傾向等情緒的な問題が想定される子も対象としている。

◆相談の内容について

18年度実施した巡回相談の内容・件数については表1を参照されたい。総件数のうち、51%は教員、6%は保護者からの相

表 1 平成18年度相談件数 (平成19年 3 月19日現在)

	主訴分類	件数	%
1	発達障害(学習障害・注意欠陥/多動性障害・高機能自閉症・精神遅滞等)に関する内容	1512	43
2	問題行動等	463	13
3	落ち着きなし	387	11
4	不登校・登校渋り	270	8
5	情緒不安定	204	6
6	その他	658	19
	計	3494	100

談である。残りの43%は授業見学も含めた児童についての相談活動である。なお、この件数は、相談回数と異なる。

内容は、発達障害に関するものが圧倒的に多いことが分かる。件数2位、3位についても、背景に発達障害がある可能性が考えられる。さらに、不登校等の情緒的問題に、発達障害が絡んでいることも少なくない。また、逆に発達障害の問題に、二次障害という情緒的な問題が絡む場合もあり、多面的な理解が必要である。

教員相談では、授業見学を踏まえ、理解の充実を図り、具体

的な支援の方向性を探っている。保護者相談では、学校での問題のみならず、子育てにおける悩みや不安などについても話を伺っている。また、相談の中で必要に応じて保護者の了解を得て発達検査を行い、子どもへの理解、支援の充実を図る活動も行っている。

◆関係機関との連携について

特別支援相談室の中で、特別支援の必要な子に対し、直接指導に当たる巡回指導員と、授業見学時の様子など、日常的に情報交換を行っている。

また、特別支援学級(固定・通級)も視野に入れたサポートの検討が必要な事例については、就学相談につなげ、専門家の判断を仰いでいる。

さらに、学校外での定期的な相談の必要が感じられる事例については、教育相談室を勧めていく。事例により学校での様子を担当に伝え、相談における見立てや方向性について共に検討する時間をもっている。

その他、医療機関を紹介する場合や、子育て支援課と協力して当たる事例などもあり、関係機関との連携もまた重要な活動のひとつである。

◆校内会議等への参加について

校内の会議に参加したり、教員向け・保護者向け研修会で講

演をさせていただく機会もある。18年度には教員対象34回、保護者対象2回、特別支援教育や軽度発達障害、子どものこころの理解等の内容について話した。

◆その他の活動について

巡回指導と共に、教員を対象とする広報誌「ほっと通信」を学期ごとに発行している。巡回担当の活動や特別支援教育への理解を図るためである。

また、夏季休業中、不登校対策として、不登校児童・生徒のいる小・中学校に指導主事と赴き、検討会を持っている。

◆今後に向けて

この一年、学校現場において、たくさん子どもたちのつまずきや痛み、先生方の苦悩、保護者の行き場のない思いに出会ってきた。巡回相談とは、それぞれの心を受け取り、つないでいく作業ではないかと思っている。

ここまで、平成18年度の活動を振り返ってきたが、19年度からは、特別支援相談室に教育相談(教育センターでの来室相談)が加わり、心理士が巡回と来室を兼務する形となるため、やや体制が変化する。

初年度の成果と課題を吟味しつつ、これからも、子どもたちと先生方、保護者の方々の心をつなぎ笑顔に結ぶような活動を行っていききたい。

わが校の特色ある教育 NO. 10

魅力ある伝統 受け継ぎ、伝えたい力 【6年生全員の鼓笛活動】

府中市立府中第八小学校
教諭 水野 洋子



念パレードに参加した記録写真が残っている。この時府中第八小は創立二十周年ユニフォームや、トランペットなどの管楽器が揃った時期である。

このユニフォームは、周年行事に合わせて、当時の実行委員会を中心にバザーなどの資金から作られた物である。現在使っている物も、四十周年からの物を大切に引き継いできたのである。

楽器は、その当時の府中市教育委員会から貸与されたものが大部分のため、傷みも激しいが、子どもたちの手から手へ受け継がれてきたものである。

《日常の鼓笛活動》

ここで本校の鼓笛活動の様子をお伝えしたい。

月曜日の朝、6年生は少し早めに登校する。すぐに音楽室に集合。音出しをするためである。

ド・ド・ド・ド・ド・ド

月曜朝会終了後、5年生以下が教室へ入る時に「海兵隊」などの行進曲を演奏する。本校の児童は1年生からこの演奏に親しんでいるのである。

運動会で披露するマーチングパレードは、6年保護者にとって最大の楽しみであり、成長の

姿を目の当たりにする喜びの時である。5年生にとっては、次は自分たちの番ということを感じする時でもある。

《師匠から弟子へ》

11月。各クラスで児童の希望を中心として楽器を割り振りする。その楽器同士、6年生と5年生で一对一の師匠と弟子の関係を結ぶのである。

師匠になった6年生の顔はまさに先輩、自信に満ちている。楽器の持ち方、手入れの方法、音を出すまでの一つ一つを弟子の5年生に伝えていくのである。その練習はお互いの都合を確認して、中休み、昼休みなどに行われる。さらに全体合同練習で、練習の進み具合を確認する。

打楽器のリズムを口ずさみながら教える師匠。中には2、3人の面倒を見る子もいる。

旋律を澄んだ音色で表すべし。リラ。なかなか思ったような音は出ないが、真剣な顔で息を吹き込んでいるトランペット。スライドを腕いっぱい動かしているトロンボーン。指番号を一生懸命覚えて

いるアルトホルン。大きく抱え込むようなユーフォニウム。「八小マーチ」が完成するのは意外と早い。子どもたちのエネルギーには毎年驚かされる。



《思いを深める移杖式》
2月。6年生にとって慣れ親しんだ楽器を手放す寂しさも味わう移杖式。一年間の責任を果たした安堵感もある。5年生は独り立ちの自覚をもって、日々の練習が充実してくる時である。

《共に学ぶ力 助け合う力》
このようにして本校の鼓笛活動は、毎年新しい力を蓄えていくのである。新曲に入る度に友達と教え合い、他の楽器と合わせて確認し、全員で曲として演奏出来た時、まさに心一つに成し遂げた満足感が得られる。

鼓笛は地域に支えられた府中第八小の魅力ある活動としてしっかり根付いている。

平成19年度 府中市教育委員会の教育目標

府中市教育委員会は、人間尊重の精神を基調とし、家庭・学校・地域社会の緊密な連携のもとに、子どもたちの安全を確保し、生涯にわたって心身ともに健康で、知性と感性に富み、地域社会や国際社会において信頼と尊敬の得られる豊かな人間性を培う教育を推進する。

また、府中市の歴史と伝統を継承・発展させるとともに、誰もが生涯を通じて主体的に学ぶことのできる生涯学習社会の実現を目指す。

そのために、学校教育と生涯学習の連携により、新しい本市の教育行政の確立を目指す教育ビジョン「府中市学校教育プラン21」及び「府中市生涯学習推進計画」等に基づく教育を推進する。

◆府中市教育委員会の基本方針

府中市教育委員会は、「教育目標」を実現するため、次の「基本方針」に基づき、総合的に教育施策を推進する。

基本方針 1

人権尊重の教育の推進

すべての大人や子どもたちが、人権尊重の理念を正しく理解するとともに、教育活動全体を通して、あらゆる偏見や差別をなくし、一人一人がかけがえのない人間として尊重されるよう人権尊重の教育を推進する。

- (1) 人権尊重の理念のもとに、すべての市民が学校教育や社会教育などを通じて、同和問題をはじめとする様々な人権課題への理解と認識を深め、差別意識の解消を図るための教育を推進する。
- (2) 相互に支え合う社会の実現を目指し、高齢者や障害のある人などへの理解を深めて、連帯感をなくぐむための教育を推進する。
- (3) すべての教育活動を通じて「命の大

切さと思いやり」や「自由と規律」など、豊かな人間性を培う道徳教育を充実させる。また、郷土府中の歴史と文化に根ざした道徳資料集などの活用を図り、道徳の時間を充実させるとともに、授業を積極的に地域に公開するなど、家庭や地域とより一層の連携を進めながら「心の教育」の充実を図る。

基本方針 2

豊かな個性と創造力を伸長する教育の推進

社会の変化に主体的に対応して成長できるよう、基礎的・基本的な学力の定着と自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの資質・能力の育成を重視して、個性を生かし創造力を伸ばし、自己の確立を目指す教育を推進する。

- (1) 個性を重視した多様な特色ある教育を推進するため、各学校が創意ある教育課程を編成し、組織的・計画的に教育活動を進めるとともに、特色ある学校づくりに努める。
- (2) 基礎的・基本的な学力の確実な定着を図るために、「授業改善推進プラン」に基づく「確かな学力」向上のために指導方法を工夫するとともに、児童・生徒の特性や進路希望の多様化などに対応するため、ティームティーチングや少人数指導、選択教科の拡大など、個に応じた多様な教育を推進する。
- (3) 体験的な学習や問題解決的な学習を重視するなど、教育内容や方法の改善に努め、一人一人の個性や能力を生かして、自己の確立を目指す指導の充実に努める。
- (4) 教科横断的な指導の工夫や体験的な活動の充実により、望ましい勤労観・職業観をなくぐみ、児童・生徒が自己理解を深め、将来の生き方を考え、主体的に進路を選択する能力や態度を育成するなどのキャリア教育を推進する。

- (5) 障害のある幼児・児童・生徒が、その能力・特性などを十分に伸ばして成長・発達していくために、教育相談を充実させることと、個々の教育ニーズに応じた指導が受けられるよう、特別支援教育の充実に努める。
- (6) 郷土の歴史や文化を学び、自らの郷土に対する愛着や誇りをなくぐむとともに、世界の人々や文化にふれる機会の充実を図る。
- (7) 豊かな想像力、創作力をなくぐむための情操教育の充実を図る。
- (8) 児童・生徒の情報モラルを含めた情報活用能力を育成するとともに、学習に対する興味・関心を高め、理解を深めるためにICT（情報通信技術）を活用した授業改善を推進し、情報教育の充実に努める。
- (9) 社会の変化にともなう今日的な課題について関心をもち、認識を深めることができるよう、国際理解教育、福祉教育、健康、環境教育や消費者教育などを推進する。
- (10) 幼稚園、小学校、中学校の連携を通して、教育内容の確実な定着を図る。

基本方針 3

健全育成の推進と社会貢献の精神の育成

子どもたちが人間性豊かな社会の形成者として健やかに成長できるよう、家庭・学校・地域社会の緊密な連携のもとに、健全育成の推進に努めるとともに、社会の一員としての自覚を高め、社会に貢献しようとする精神の育成に努める。

- (1) 権利と義務を重んじ、思いやりの心や規範意識が実際の行動につながるよう、問題行動を防止し犯罪から身を守る教育（「セーフティ教室」）などを充実させることと、家庭や地域社会と連携して、社会体験、ボランティア活動、自然体験や交流活動などを積極的に推進する。
- (2) 人権尊重の精神を基盤に、個々の発達段階や特性などに配慮しながら、性に

対する意識・心情・態度の育成に努める。また、薬物乱用防止に対する関心を高め、理解を深めさせるとともに、的確に対応できる実践力を身に付けさせる。

- (3) いじめ、不登校など、幼児・児童・生徒の多様な生活指導上の課題に対応し、互いに認め合い、共に学び合う学校づくりを進めるため、関係機関との連携を図るとともに、学校における教育相談機能の充実及び教育相談室の整備・充実に努める。
- (4) 子どもたちが、自他をいつくしみ生命を大切にするなど、人間性豊かに健やかに成長できるよう、学校と家庭、地域社会の連携のもとに、心と体の健康づくりを推進する。
- (5) 基本的な生活習慣の育成、ヘルスプロモーションの理念に基づいた健康の保持増進、子どもたちが食に関する幅広い知識を身に付け、自己管理能力の育成を目標にした食教育の推進に努める。
- (6) 災害などに対して、家庭・学校・地域社会との連携の在り方を明確にした防災・防犯体制や危機管理体制の確立を図り、「子ども安全ボランティア」や「地域安全協議会」などを活用して幼児・児童・生徒の安全確保に努める。
- (7) 小学校と中学校の生活指導について小中連携協議会等を通じて連携を図る。

基本方針 4

市民の教育参加・参画と学校経営の改革の推進

時代の要請や市民の期待にこたえる教育を推進し、家庭・学校・地域社会との協働とすべての市民の教育参加を進めていくために、市民感覚と地域の特性を重視した教育行政を展開し、さらに開かれた学校づくりを推進する。

- (1) 学校運営連絡協議会や学校公開、学校評価システムなどを活用して、保護者や市民の参画を進めながら、広く学校の教育活動を公開して、開かれた学校づくりを一層推進する。

基本方針 5

多様な学習機会を提供する生涯学習の拡充

- (2) 学校教育の改善に対する各学校の取組を進めるため、学校の自主性・自律性の確立と校長のリーダーシップの発揮を支援する。また、学校経営計画に基づく教育活動の取組みや成果などを評価・検証する仕組みを活用し、学校へのきめ細かい支援を行うための体制づくりを推進する。
- (3) 教員の資質・能力の向上を図るため、ライフステージに応じて、人事考課と連動した研修を企画し、一層効果的に推進する。
- (4) 図書館、美術館、郷土の森博物館、生涯学習センター、スポーツ施設等の活用を重点を置くとともに、教育活動において、地域の施設や経験豊かな人材など多様な教育資源の有効活用の推進に努める。

豊かな生涯学習社会の実現を目指し、いつでも、どこでも、だれでもが生涯にわたって学習、文化・芸術、スポーツ・レクリエーション活動に気軽に参加でき、より豊かで主体的な学習活動が展開できるよう、学習活動の場、多様な学習機会と情報提供の充実を図る。

- (1) 市民がそれぞれのライフステージに合わせて自主的な学習、文化・芸術、スポーツ・レクリエーション活動がしやすい環境づくりを推進するとともに、生涯学習情報提供の充実を図る。
- (2) 生涯学習、社会教育講座の充実を図るとともに、市民の自主的な学習活動の成果の発表の場として、生涯学習フェスティバル、文化祭などの事業を拡充する。
- (3) 青少年が自主的に活動し、社会参加できる環境づくりを推進する。
- (4) 多くの市民が積極的にスポーツ活動に参加し、豊かなスポーツライフを営む

(次頁へ)

ことができるよう、スポーツやレクリエーション事業の充実を図るとともに、市民の自主的な活動を支援する。

(5) 博物館の展示などを通じて、古くから受け継がれてきた有形・無形の文化財の保護・保存に努め、貴重な文化財を未来に継承していくとともに、活用の充実を図る。

(6) 優れた芸術に親しむことのできる美術鑑賞の機会の充実に努めるとともに、美術教育普及事業の拡充を図る。

(7) 生涯学習を支える情報拠点として、地域や住民にとって役に立つ図書館機能を充実を図るとともに、子どもの読書活動を一層推進する。

(8) 生涯学習施設、大学、各種学校、民間生涯学習機関やNPO・ボランティア団体など、地域の学習資源と協力しながら生涯学習ネットワークづくりを推進する。

基本方針6

学んだことを地域で生かす「学び返し」の充実

生涯学習活動で培った能力や様々な分野における専門的な知識・技能をもった人材の活用を図るため、人材活用システムを整備し、地域で生かせるようにする。

(1) 市民の学習内容や求めに応じた講師・指導者の派遣を行うために、それらの人材の発掘や育成を行うとともに、登録制度など人材活用システムの整備・充実を図る。

(2) 学習の成果を生かす市民活動を促進するため、ボランティアの体験活動の場を整備し、市民の主體的な活動を支援する。

(3) 市民の自主的な学習、文化・芸術、スポーツ・レクリエーション活動を支援し、コミュニティの輪を広げ、地域社会の活性化を促進する。

	日	曜	研修会・委員会等	会 場	研修内容・講師等
4月研修会・委員会等予定	13	金	特別支援学級代表者会	教 育 セ ン タ ー	全体会（連絡・検討事項）分科会
	16	月	生活指導主任会	教 育 セ ン タ ー	全体会（連絡・検討事項）小・中分科会
	17	火	初任者研修会	教 育 セ ン タ ー	開講式
	20	金	新任・転任校長・副校長研修会	教 育 セ ン タ ー	講演「府中市の学校教育と管理職の在り方」（仮題）
	20	金	授業力アップ研修会	教 育 セ ン タ ー	授業力アップ研修の進め方について
	23	月	主幹研修会	教 育 セ ン タ ー	講演「教育の基礎法令」（仮題）
	26	木	教務主任会	教 育 セ ン タ ー	全体会（連絡・検討事項）小・中分科会
	27	金	算数・数学指導員研修会	教 育 セ ン タ ー	少人数指導、TT指導のポイントについて
	27	金	進路指導主任会	教 育 セ ン タ ー	全体会（連絡・検討事項）



4月、新年度がスタートする。これから各学校においては、それぞれの特色ある教育課程に基づく教育活動が展開される。

府中市学校教育プラン21においても「オンリーワンの学校づくり」が提言され、特色ある教育活動が推進されている。

学校の自主性・自律性、創意工夫、特色ある教育活動・学校づくりが進むにつれ、「カリキュラム・マネジメント」という言い方が広まってきた。

これは、学校教育目標の達成を目指して、学校内外の人的・物的資源や特色を生かしながら、教育課程の基準に基づき、自主的・自律的に教育課程を編成し、学校の教育の質を高め、改善を図っていく具体的方策を意味するものである。

このときに重要となるのが、「学校のグランドデザイン」である。これは、児童・生徒や保護者そして地域社会の願いや期

学校のグランドデザイン



待を踏まえ、学校が目指す学校像や育む児童・生徒像を明確にし、その実現を図るために学校教育全体の中で、どのように課題と方策に取り組んでいるかを示した「全体構想」のことである。

この「学校のグランドデザイン」には、「学校らしさ」が凝縮されてくる。そして、「学校のグランドデザイン」を全校職員が参画して作成することにより、教職員一人一人が学校像を共通理解することができ、その実現に向け、広い視野に立って教育活動を捉え直すことで、意義ある教育課程の展開が期待される。

学校らしさは、特に総合的な学習の時間に見ることができ。例えば、水田、米づくりを中心とした活動であったり、多摩川の緑を生かした活動や特別支援学校との交流などである。

4月、各学校のグランドデザインに基づく教育活動が始まる。

（指導主事 長田 和義）

あとがき

沖縄県教育庁が、自主夜間中学「珊瑚舎スコレ夜間中学校」で学んでいる六十、七十歳代の女性7人に中学校の「卒業」を認定することを決めた。沖縄戦や戦後の生活難で小中学校に通えなかった人たちに配慮した特例措置である◆この卒業生たちは、更に、定時制や通信制の高校を目指すという。合格したら卒業まで必死に頑張りたい「若い頃学校に通えなかった分、残された人生を自分を高めるために使いたい」と語る◆学ぶことを素直に喜び、向学心は衰えない。時代に翻弄されたとはいえ、それだけに飽くなき学ぶ意欲を持続させてきた。厳しい時代そのものが厳格な教育者だったのであろう◆いよいよ新学期。子どもたちは、それぞれにこの1年間をどのように過ごしていきたいか心に目標や決意を秘めて新学期を迎えたことに違いない◆時季もまた、刺激を与える教育者になりうる。入学、進級、新しい制服、そして、新しい先生や友達、そうした新鮮な刺激が、子どもたちの学ぶ意欲を高揚させる◆この意欲を大事に持続させるとともに、興味や関心を高め、更なる意欲の喚起につなげていきたい。（横山 洋）